

# CHIBA 赤十字 NOW

2023  
Vol. 62



【特集】

ひとりでも多くのいのちを救える社会を目指して





# ひとりでも多くのい

赤十字は192の国と地域にあり、世界最大のネットワークを持つ人道支援組織です。その世界的なネットワークを活かし、日本赤十字社では世界中の災害や紛争、病気などに苦しむ人々を救うため、緊急時の救援や復興支援、開発協力など国際活動に取り組んでいます。



©Atsushi Shibuya/JRCS

## 赤十字の国際活動

赤十字は、いかなる状況下であっても誰もが「自ら立ち上がる力（レジリエンス）」を持っていると考えています。その力が高ければ高いほど、自身の力でリスクを予見し、危機に対応し、回復し、さらに前進することが可能です。地域社会やそこに住む人々が危機にさらされた時、真っ先に対応するのは彼ら自身です。赤十字は、地域社会あるいは人々が持つ「レジリエンス」、とりわけ「地域の力（コミュニティ・レジリエンス）」を高めることを目指しています。

そのために、被災者への医療や衣食住の支援といった緊急救援だけでなく、その後の復興支援、そしてこの「レジリエンス」を培う長期的な開発協力という流れで包括的に取り組んでいます。

## 日本赤十字社の開発協力

日赤の開発協力事業は、「レジリエンス」の強化を目的として、世界で最も自然災害が発生しやすく被害が大きいアジア・大洋州地域と、気候変動の影響や貧困など、複合的な課題を抱えるアフリカ地域を重点地域とし、各国赤十字社とともに、「逆境に負けない地域づくり」を支援しています。



©インドネシア赤十字社  
学校での防災訓練（インドネシア）



©ルワンダ赤十字社  
地域住民に肥料の作り方を指導するボランティア

## アジア・大洋州地域 救急法普及支援事業

アジア・大洋州地域は、世界的に見ても自然災害の多発地域であるとともに、急速な発展による交通量の増加に伴い交通事故が深刻化しています。インフラや救急医療システムが発展途上であるこの地域では、災害や事故による傷病の予防に努めるとともに、けが人や急病人を救うために、市民による救急法の実践が重要となります。

今回は、救急法普及支援事業に参加するため、2月18日（土）～25日（土）ラオス赤十字社に派遣された当支部職員 柴崎総務課長に活動内容を聞きました。



柴崎 孝幸

・日本赤十字社千葉県支部  
総務課長（派遣当時）  
・救急法講師

## ラオス人民民主共和国



面積：236,800km<sup>2</sup>  
※日本の本州とほぼ同じ  
人口：742.5万人（2021年）  
※埼玉県とほぼ同じ

## 交通事故が深刻化するラオス

### —ラオスはどんな国？

ラオスはメコン川が横断する東南アジアの国で、山岳地帯、フランス植民地時代の建築物、山岳民族の集落、仏教の僧院などで知られています。首都ビエンチャンには凱旋門「パトゥーサイ」や、食べ物・工芸品の店がひしめき合う朝市やナイトマーケットがあり、「世界で最も行きたい国」として知られています。

しかし、急速な経済成長に伴う自動車の普及や交通インフラの整備により、交通事故死者数が増加しており、首都ビエンチャンは同国において最も交通事故死が発生しやすい地域です。



凱旋門「パトゥーサイ」



朝の通勤ラッシュ  
（首都ビエンチャン市内）

# のちを救える社会を目指して

## ボランティアが救急車を運転

### —ラオスの医療水準は？

ラオスは、特に開発が遅れている後発開発途上国の1つであり、医療水準は近隣諸国と比べても極めて低い状況にあります。2015年時点の人口1,000人当たりの医師数は 0.272 人と、世界平均の1.804人を大きく下回っています。また、救急搬送(救急車)については、数少ないボランティア救急隊が運営しており、依頼してから到着まで非常に時間がかかるなど、地域住民が自分たちで応急手当を実施できるようにすることが非常に重要です。

## 救急法のノウハウを伝える

### —日本赤十字社の役割は？

ラオス赤十字社(以下、ラオス赤)は、そのために必要な救急法の知識・技術の普及を目指しているところですが、普及に必要な人材の育成や資機材の整備など自国だけのノウハウによる普及は困難な状況にあります。

そこで、日赤は、2019年10月からラオス赤が行う救急法普及事業に対して、人材育成や資機材整備のための財政支援、指導員の派遣による技術支援を行うこととしました。今回、渡航制限の緩和を受けて、支援開始後初めて、私を含めた日赤職員4名が現地を訪問しました。

### —現地での活動内容は？

1日目は、救急車による患者搬送を行なっているボランティア救急隊を視察したあと、ラオス赤本社を訪れ救急法普及のための資機材の整備状況等を確認しました。2～4日目は、ラオス赤が開催する救急法指導者養成講習に参加し、指導者になる予定のラオス赤職員に対して講習内容や指導技術、資機材の取り扱いに関する助言をしました。



ラオス赤職員に技術指導する柴崎総務課長

## ラオス赤職員の熱い思い

### —特に印象に残っていることは？

派遣中、特に印象に残っているのは、ラオス赤職員の救急法普及への意欲とポテンシャルの高さです。現地の救急医療体制の脆弱さを理解しているからこそ、地域住民に救急法を普及することで、ラオスの医療状況を少しでも改善したい、という熱い思いがありました。彼らの熱意が、今後の活動に発展性と持続性を持たせてくれると感じました。現状では、基本的な知識・技術のみ持ち合わせている状況なので、これから応用的な部分を取り入れ、幅をもたせた指導ができるよう次のステップを目指してもらえたらと思います。



デモンストレーションを熱心な様子で動画におさめるラオス赤職員



無事、指導者に合格したラオス赤職員

今後は、どのような形で救急法普及を行っていくかはもちろんのこと、普及が進むにつれ指導者の養成、資機材の整備、モニタリング等課題は多くあり、この課題を一つずつ適切にクリアしていくためにも日赤として継続した金銭的・人的支援を行うことは必要不可欠です。日赤は、国内での救急法普及のみならず、ラオス赤が救急法を普及できるようこれからも支援を続けていきます。



日本赤十字社が実施する国際活動は、NHK海外たすけあいキャンペーンをはじめ、赤十字会員からの会費や寄付を主な財源としています。皆様のあたたかいご支援・ご協力をお願いいたします。



# あなたも 赤十字サポーターに!

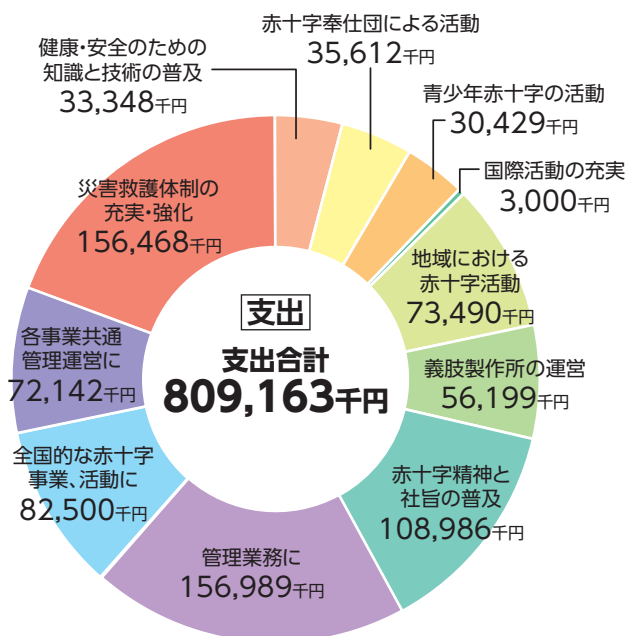
赤十字は、公的資金を使わずに活動することによって、国などから独立し、公平・中立の立場で人道的活動を行なうことができます。

皆様のご支援・ご協力をお願いいたします。

## 〈 活動資金の使いみち 〉 (令和5年度予算)

### 収入

会費・寄付金 620,000千円  
雑収入等(補装具製作収入ほか) 189,163千円  
**収入合計 809,163千円**



## 活動資金のご協力方法

毎年5月・6月に行われる赤十字運動月間中に、町内会・自治会、赤十字奉仕団などの皆さまにご支援をいただきご協力をお願いをしているほか、年間を通じて以下の方法でもご協力いただけます。



インターネットで



金融機関、郵便局・ゆうちょ銀行で



お近くの赤十字窓口で

※ご協力方法の詳細は当支部ホームページでご案内しています。



寄付のお問い合わせ・お申し込み先

日本赤十字社千葉県支部 振興課  
TEL 043-241-7531(代表)

千葉県支部では、災害救護をはじめ、救急法などの講習普及など、人間のいのちと健康を守るため、幅広い活動を行なっています。

## 災害救護

災害時、いち早く医療救護班を被災地へ派遣し、救護活動を行なうほか、訓練や救援物資の備蓄など、日頃から災害に対応できる体制を整えています。



令和元年房総半島台風  
災害時の救護活動

## 救急法等の普及

心肺蘇生やAEDなどいざという時の手当てや、日常生活での事故防止に役立つ知識を普及するため、4種類の講習会を開催しています。



救急法講習(心肺蘇生)

## 赤十字ボランティア

赤十字ボランティアの研修会の開催や、ボランティア活動に使う資材を整備することにより、地域に根差した活動を円滑に行なうことができます。



認知症予防カフェを運営する  
地域奉仕団

## 青少年赤十字

学校教育の中で赤十字のプログラム等を取り入れ、学習指導要領に応じた「気づき・考え・実行する」青少年の育成を行なっています。



県内中学校の授業で行なわれている  
高齢者疑似体験

## 税制上の優遇措置

赤十字活動資金にご協力をいただくと、次の税制上の優遇措置を受けられます。

### 個人に対する税制上の優遇措置

優遇区分	措置の内容等
所得税(所得控除)	寄付金の全額(ただし、上限は寄付者の年間所得総額の40%まで)から2,000円を差し引いた額が、寄付者の年間所得総額から控除されます。
相続税(非課税)	相続により取得した財産(全部または一部)を寄付した場合、寄付した相続財産の価格が相続財産から除外されます。

### 法人に対する税制上の優遇措置

優遇区分	措置の内容等
法人税	通常の寄付金の損金算入限度額とあわせて、別枠で算出した特定公益増進法人に対する寄付金の損金算入限度額を損金に算入することができます。

# 今日も赤十字を支える ボランティア紹介

## 千葉県赤十字語学奉仕団 —得意の語学力を活かして人助けを—

結成年月日 | 平成元年10月18日 団員数 | 49名(令和5年2月末時点)

言葉の通じない外国人の方のために通訳・翻訳をしたり、青少年赤十字の国際交流プログラムにおいて子どもたちをサポートするなど、得意な語学力を活かした活動を行なっています。



語学奉仕団 団員  
松本 憲造さん

### 活動を始めたきっかけを教えてください。

今から15年ほど前、スペイン語の勉強を始めて間もない頃、外国人の知り合いのお子さんが交通事故に遭い、ご両親ともスペイン語しか話すことができなかつたので、困り果てたご両親から搬送先の病院での通訳を頼まれたことがありました。自信がなかつたので一度お断りしたんですが、「0と1だったら、1の方が大きいから」とせがまれ、引き受けました。医師の説明を懸命に通訳して伝え、何とか理解してもらえました。その時に「本当に助かった。どうもありがとう」とすごく感謝され、それまでは語学の勉強は自分のためではなかつたんですが、自分の語学の知識が誰かの役に立つんだということを知りました。この経験が今の活動を始めるきっかけになり、今では、誰かの役に立つために私に与えられた“ミッション”だと思つて、語学の勉強をしています。

### そんなことがあったんですね!活動をしている中で、印象に残っていることはありますか?

語学奉仕団は、青少年赤十字事業の国際交流プログラムで子どもたちのサポートをする活動をしています。事前準備から交流本番まで関わるので、子どもたちが成長していく姿を間近で見ることができ、その成長の早さには非常に驚きます。私たちはお手伝いしている側ですが、とても励まされるんです。そういった場面に遭遇できることも、活動の楽しみの一つですね。



英会話に挑む子どもたちにアドバイスする  
語学奉仕団

団員  
募集中!!

活動内容によって、必要な語学やレベルは変わりますので、自分の語学を使って誰かの役に立ちたいという想いのある方はぜひ一緒に活動しませんか? スペイン語の勉強会(オンライン)も毎月開催しています!

申込は  
こちら

soshiki@  
chiba.jrc.or.jp



## 成田赤十字病院ボランティア会 —患者さんに“こころの安らぎ”を—

結成年月日 | 平成6年9月21日 会員数 | 34名(令和5年2月末時点)

病院を訪れる患者さんに“こころの安らぎ”を感じていただくことを目的に、成田赤十字病院を拠点に活動しています。コロナ禍の現在は、患者さんのご案内や消毒作業等を中心に活動中!



病院ボランティア会 会員のみなさん

### どのような活動をしていますか?

患者さんに安心して病院をご利用いただくために、病院を訪れる患者さんに受付場所等をご案内したり、現在は感染対策のため休止していますが、入院されている患者さんに病棟で食事の配膳や食事中的の見守り、レクリエーションをするなど、入院生活を少しでも快適に過ごしていただくための活動をしています。また、七夕飾りやクリスマス会など四季行事の企画・運営をしています。新型コロナの影響で衛生材料が不足した際には、医療従事者が使用する不織布のアームカバーやエプロンを作製するなど、病院や患者さんが必要とすることは積極的にお手伝いしています。

### 活動を長く続けている方も多ですが、活動を続けられる原動力は?

やはり患者さんからの感謝の言葉ですね。感染対策をしながら患者さんをご案内するのは、かなり神経を使うので大変ですが、患者さんからの「ありがとう」の言葉があるから続けられます。大きな病院を受診することは特に不安が大きいと思うので、私たちの存在で患者さんにホッと安心してもらえたら嬉しいです。また、何でも言い合える仲間たちとの活動は楽しく、元気を保つ場所にもなっています。コロナ禍で活動が制限されていますが、今後も自分たちができることを模索しながら活動を続けていきたいと思つています。



患者さんをご案内する団員

会員  
募集中!!

幅広い年代のボランティアが活躍しています。病院には、ボランティアが協力できることがたくさんあります。私たちと一緒に活動しませんか?

申込は  
こちら

成田赤十字病院社会課  
☎0476-22-2311





## 銚子中央保育園で取り入れる防災教育

2月15日(水)銚子中央保育園で開催された「赤十字集会」において、日赤提供の防災教材『ぼうさいまちがいさがし きけんはっけん!』を使った防災教育が行われました。園児たちは、地震発生時の教室の様子が描かれた絵を見て危険だと思うところを探し、危険だと思った理由を話し合いました。最後には、地震が起きたら机の下や教室の真ん中でダンゴ虫のポーズをとって身を守ることを勉強し、自分の身は自分で守れるようにすることが大切だということを学びました。

## 旅客船事故対応訓練に参加



2月22日(水)千葉港で行われた旅客船事故を想定した訓練に成田赤十字病院救護班と当支部職員が参加しました。

訓練では、水中障害物に衝突し航行不能となった旅客船から千葉海上保安部や県警、消防によって傷病者が救助され、栈橋近くに設置した臨時救護所において成田赤十字病院救護班が応急手当を行いました。

## 防災イベント「まなぼうさい」に出展

3月5日(日)蘇我コミュニティセンターにおいて、防災イベント「まなぼうさい」が開催され、当支部は防災クイズラリーと風呂敷を使ったリュックサックの作り方体験のブースを出展しました。防災クイズラリーには99人、リュックサック作成体験には65人と、多くの方にご参加いただき、参加者からは「子どもに防災知識を知ってもらう良い機会になった」「こんなに簡単にリュックサックが作れるとは思わなかった」などの声がありました。



### 活動資金 協力企業 (団体)の ご紹介

日本赤十字社の活動は、皆様からお寄せいただく活動資金によって支えられています。赤十字のサポーターとして、活動を支えていただく「大きな力」となっています。ご協力、誠にありがとうございました。

※ 令和4年度第3四半期に千葉県支部へ直接10万円以上のご寄付をいただき、掲載をご了解いただいた法人(団体)のお名前をご紹介します。なお、千葉県支部ホームページにおいてもご紹介しています。(敬称略・五十音順)

医療法人社団愛弘会 みらいウィメンズクリニック(印西市)  
 有限会社 エヌテック(千葉市美浜区)  
 有限会社 エフルジャパン(東京都荒川区)  
 かすみメンテナンス株式会社(松戸市)  
 株式会社 三浩総産(船橋市)  
 CSネットワーク株式会社(千葉市中央区)

株式会社 シーエヌティー(市原市)  
 株式会社 シンク・ラボラトリー(柏市)  
 株式会社 ダンゴ&ディーネンタルジャパン(四街道市)  
 株式会社 鶴商メンテナンス工業(市原市)  
 株式会社 ナレッジワーカー(市原市)  
 米屋産業株式会社(成田市)